

～ SST プログラム～
大自然と異文化の中で
社会性を伸ばす

ハワイサマースクール報告書
バラエティスクール



大阪 YMCA

大阪YMCA・バラエティスクール協働SST

大阪YMCA（以下、YMCA）とバラエティスクール（以下、バラエティ）の協働プログラムであるサマースクールの前身は2007年、大阪医科大学とバラエティの協働ではじまりました。幼児と小学生を対象としたもので、3週間保護者が同行で5年間続きました。バラエティはハワイオアフ島、ホノルルから車で15分ほどのダイヤモンドヘッドの西に位置する大きな家々が並ぶ静かな住宅地にあり、自然に恵まれた素晴らしい環境にあります。バラエティは学び方が違う子どもたちに多方向からのアプローチによって、最大限の可能性を引き出すことをミッションとしている私立学校です。

YMCAとバラエティの協働では、対象者を中高生とし、2週間、社会人に向けて自分たちが自立していくために必要な能力、ソーシャルスキルトレーニング（SST）を伸ばす目的で2016年に開始をしました。これはYMCAの発達支援とキャンプの専門

性を生かすものとなりました。彼らが気づき、そのために自分が努力しなければいけないことや周りのことを考えなければいけない、このような社会性を学んだこと、そして仲間ができた、ということは大変大きい成果です。活動中、その子にあった目標と適切な負荷もその子を大きく伸ばすことになりました。

ハワイの大自然を生かした活動やほぼ全食自炊などは生活体験の少ないメンバーに大きな影響を与えました。裸足で流れの速い川を渡ること、雨の中、傘をささずに活動すること、自分たちでメニューを考え調理すること、予定を見ながら持ってきた衣服をタイミングよく洗濯をしていくこと、失敗と達成感の繰り返しでした。でもいつも横に支えてくれる大人や仲間がいることは、小さなステップで多くのことを乗り越えることができる環境でした。

現地のビリー先生と日本側スタッフ（サポートクラス※1の言語聴覚士と表現・コミュニケーション学科※2のスタッフ）が試行錯誤の中で、素晴らしいTA・SST※3を形にしました。

バラエティが開始当初のやり方に固執せず、柔軟にYMCAの提案を受け入れてくれたのも成果が出た大きな要因でした。ソーシャルスキルを学ぶ目的ですが、社会性の定義そのものが違う日本とアメリカ。そこで異文化理解を通して多様性を受け入れることも双方の学びとなりました。メンバーだけではなく、指導者も多くの達成感で終えたサマースクール。2018年度はSSTだけではなく、もう一歩踏み込んだホテル内での生活スキル（ライフスキル）も行う予定です。

※1 サポートクラス ※2 表現・コミュニケーション学科 ※3 TA-SST

大阪YMCAにある発達に課題のある子どもたち対象の療育クラス

多様な不登校生を対象とした大阪YMCA国際専門学校高等課程の学科（通称 表コミ）

指導者3名がチームとなり、それぞれの専門性を融合させてメンバーの社会性のつまづきや自己肯定感の向上にアプローチしていくことが最大の特徴

2017年度 ハワイサマースクールを終えて



大阪YMCA 総主事 末岡祥弘

2017年度のハワイサマースクールは爽やかな風と光の中、メンバーに大きな経験と自信を与えました。

YMCAは、青少年が自然の中で、教育的目的を持った活動や共同生活を行うことを「組織教育キャンプ」と呼び、100年の歴史を積み重ねています。その目的を要約すると、次の三点になります。

「道に迷わず生きていく方向を見つけ」

「火が起こせて自立するスキルと力をつけて」

「他の人を助ける方法を身につける仲間の人と頼り頼られる関係を作る」

第2回目の実施となったハワイサマースクール（組織教育キャンプ）も、YMCAとバラエティという両専門家の計画の下、その目的を十分に果たしました。

メンバーは、日本とは大きく異なる大自然やグローバルな社会（異なる言語、文化、価値観、社会性概念）での非日常の体験を通して、自分に向き合い、ソーシャルスキルと自己肯定感を向上させ、忘れ難い人々に出会ったことでしょう。

来年度もまた、より良いものにしたサマースクールを計画したいと思っています。数多くの若者が、このキャンプのような安心できる環境の中で、「人生は素晴らしい、多くの人と共に生きていくことは素晴らしい」と感じ、社会で生きていく力を身につけていってくれることを心から願うものです。



ハワイサマースクール 2017 概要

- プレスクール 5月28日(日)・6月18日(日)・7月9日(日)
- ハワイサマースクール 7月24日(月)～8月6日(日)
- 報告会・個別面談 8月20日(日)
- アフタープログラム 2018年3月28日(水)～29日(木)
- メンバー 10名(男8名・女2名/中学生3名・高校生7名/サポートクラス3名・表コミ3名・過去のメンバー3名・新規1名)

7/24 月	7/25 火	7/26 水	7/27 木	7/28 金	7/29 土	7/30 日
日本出発 ホノルル到着 	英会話・SST 買物・ ホームビジット 	英会話・SST ダイヤモンドヘッド ハイク 	英会話・SST シーライフパーク アードマン 	英会話・SST YMCA キャンプ アードマン 	アリゾナメモリアル 	ビーチ・観光 (ワイキキ周辺) 
7/31 月	8/1 火	8/2 水	8/3 木	8/4 金	8/5 土	8/6 日
英会話・SST マカプウハイキング 	英会話・SST ビーチハウス 	英会話・SST カハラモール ショッピング 	英会話・SST シュノーケリング (ハナウマベイ) 	アラモアナで ショッピング・ ホームディナー 	ホノルル出発 	日本到着  



バラエティ スクール × 大阪 YMCA



パートナーシップを続けていくことを期待して (ジョリーン ジュリーグチュア)

このユニークな環境、献身的なスタッフ、両機関からのサポートは、今後のプログラムの継続と成功への強い基盤を作り上げました。

大阪YMCAとパートナーシップを結ぶことを大変光栄に思います。私たちのご縁を繋いでくださった竹田先生の先見の明に深く感謝いたします。パートナーシップを組んで2年目とまだ日は浅いですが、大阪YMCAとバラエティスクールの生徒やその家族たちに対する心、情熱や共感するものは同じだと学びました。

バラエティスクールは、私たちのサポートを必要とする子どもたちとその家族の生活が向上するために、新しい方法やクリエイティブな方法を見つけながら、今後も大阪YMCAとのパートナーシップを続けていくことを期待しています。

みつかる つながる よくなっていく
(鍛治田千文)

このプログラムをすると決めた時は多くの不安もありましたが、ハワイという魅力的な場所、他の学校と連携するということに心が踊りました。青い空と海、過ごしやすい気候、そんな場所です。私たちが発揮できると期待が膨らみました。

2週間24時間の活動でメンバーが成長することは確信していましたが、それ以上にスタッフのグループダイナミクスに驚かされました。最初はどこまで、誰が、何をするかはクリアではありませんでしたが、3人3様、違う専門性を持つている上に豊かな人間の幅で相手を尊敬し、認め合い、お互いに最高のパフォーマンスが出せる形となりました。彼らはメンバーたちのために毎日時間を気にすることなく議論し続けました。ア・ウンの呼吸で動ける仲間との出会いと自身の120%以上の力を発揮できるその充実感がスタッフたちを魅了したのでしょう。1+1が5にも10にもなる手ごたえを

日々感じながら活動できたことに私はどこか神様の計画を感じずにはおれませんでした。自然と異文化と3人の力、また竹田先生、ジョーリンやスミスリカさんも神様でつながったように思えました。

この活動でメンバーが、SSTの最終の目的、自分で考え、自分で決め、自分で解決する、その力をつけ自己肯定感をもって歩む一歩になったことでしょう。大きく成長したメンバーをはじめ、柔軟で協力的で協働させていたいただいたバラエティの皆さん、快く送り出し協力を惜しまなかった事務所のスタッフたちに心から感謝申し上げます。

MEMBERS



子どもたちに 思いをよせて

1980年代初期からバラエティスクールの前校長イー先生とはおつきあいが続いています。バラエティの幼稚園〜小学校までのしつかりとした指導を毎年見せてもらっている中で、ある時、1人の日本の子どもが入っていました。そこで日本の子どもたちのために何かできないかと相談し、幼児期から学童期低学年の子どもを3週間預かるサマープログラムを大阪医科大学とバラエティの協働で最初に始めました。これが5年続き、全てのスタートになります。

のびのびと、子どもが持っているポテンシャルを伸ばしていくようなソーシャルスキルトレーニング（SST）をしたいと考えました。保護者同行で、土日は保護者が子どもの面倒を見ることが条件でした。8時半〜15時位までがバラエティでの指導、それ以降夕食までは日本側のスタッフ田中枝緒さん（当時、南芦屋浜病院・大阪YMCAサポートクラス非常勤講師）が中心に行っていました。15時までの活動は全部バラエティが担当し、日

本スタッフは補助として入った。これが今回との大きな違いです。

イー先生との話の中で中高生にSSTをしたい、一人ひとりがしっかりと自立していくために必要な能力をつける。そのために自分で決める、自分で考える、自分で責任を持つという大人になるために必要なしつかりとしたSSを保護者から離れた生活の中でしたい、そこにYMCAが当てはまったというところがあります。

YMCAとの協働の1年目は過去の流れを組んで、100%バラエティの流れに協力するという形でスタートをしました。が、YMCAスタッフ加藤義弘さん、斐丁葉さんが非常に優秀なスタッフだったことで形が変わりました。子どもの特性の把握と何かあったときの危機管理、それが非常に適切な対応でしたので、バラエティがこれだけなら対等に協働でやれると意識を持たれました。そして2年目は最初から対等な関係でいきました。保護者がおらず24時間管理しなければいけない。しかも土日も子どもたちのケアが必要

で、昨年は日本スタッフに相当プレッシャーがかかっていましたし、疲れ果てていたと思います。それでも妥協なしに徹底的に最後まで2人は話し合いをしていました。子どもの気持ちもしっかり組んだ上で、「こういう風にやらないといけないのは一緒に生活しているA君もB君もいるんだよ、彼らはどんな気持ちになるだろうな」と今まで彼らが考えたことがないところまで踏み込んだ指導を行いました。しかも「こうしなさい」ではなく彼ら自身に考えさせる、この非常に大変な作業を日本スタッフが受け持つて、それをやっています。

中高生のSSTは社会人に向けて自分たちが自立していくために必要な能力、その開発です。気づきと自分が我慢しなければいけないことが大きいと思います。ここを上手に日本スタッフが実施し、ビリーがうまく合わせてくれました。SSは忍耐力ですから1対1で向き合う、向き合って彼ら自身が気づかないといけない、そこに踏み込

竹田契一氏

大阪教育大学名誉教授

大阪YMCAサポートクラス
スーパーバイザー



を引いてますから。

に来年からのひとつの鍵になると私は思います。あまり全部ルールを見せやうのではなく、困らせるところはもつと困らせてもいいと思うし、彼ら自身が自分たちで切り開いて行かなくてはいけない、その気づきです。黙っていてもやってもらえるわけではなくて、「このプログラムはあなたたちが道を開けてくんだよ。あなたたちがそこで楽しいかどうかあなたたち自身が決めていくんだよ」と。ここへ持つていく必要があります。今までは比較的ルール

ここで基礎的なものをしつかり行い、自分の特性の気づきとどう克服していくかです。彼らが自分で税金を払う側としてしっかりと立ち上がってほしいという願いがあります。日本の国にとってあなたは大切な存在である、ここが胸を張って生きていくことにつながると思います。ここまできると親もサマースクールに行かせて良かったと思うのです。そこが私の大きな夢です。

YMCAだったらできるかなあ。単なるキャンプではなく、彼らしかなくて、彼ら自身がコントロールして、ルールを決め、世の中から見たら笑うような、でも彼ら自身にとっては非常に大切なこだわりのルール、そのこだわりを全部許しながら生活をしていく。まわりから見るとんでもない不思議な行動パターンを取るような子どもでもそこではそれが当たり前だったりして。そこから人間関係が生まれて。その中から彼らにはないと思われていた様々な感情が生まれるとするならば、これは治療だと思います。

んだのが大きな成果ですし、これは日本スタッフの力が大きいと思います。そしてバラエティがうまく日本スタッフの能力を引き出したこともありました。通常は学校側が決定してこうします、とか言いそうですが、常に話し合いをし受け入れてくれた、あの柔軟性が素晴らしいかと思えます。なので2週間という短期間でありながら成果があげられました。

子ども自身が自分の気持ちを上手に表す、表す上では相手に伝わるように言わないといけない、伝達性が非常に低いので低い分だけ手が出るということがあります。いかに相手にわかるように伝えていくかと同時にこちら側は彼らが思っている気持ちをうまく引き出すサポートが必要です。ここでこう言ったら相手に自分の気持ちが伝わる、ということに気づく、このコミュニケーションの基本がないとうまくいきません。学校の中では失敗を繰り返してしまつて対人関係があつて、それをどうやって切り抜け乗り越えていくか、この部分がサマープログラムの大きな、特

サマースクールの1日のスケジュール例

AM		PM	
	起床	13:00	アクティビティ
7:45	ホテルロビー集合		
8:00	バラエティ到着	15:00	バラエティ到着
	朝食		日本にメール 夕食準備
9:00	英会話レッスン・S S T	16:30	ホテルに到着
		18:00	夕食 夕食片付け
11:00	昼食準備・昼食	19:30	今日の振り返り
	外出準備		明日の確認
		21:00	フリータイム
12:00	バラエティ出発	22:00	就寝



ハワイサマースクール プレスクール

2週間のハワイでの共同生活に向け、以下のことをねらいとして3回のプレスクールを実施しました。

- ・指導者とメンバー、メンバー同士のコミュニケーションの向上
- ・サマースクールの目標設定
- ・交渉や譲歩、計画性
- ・海外生活における生活管理能力
- ・英語力
- ・P Cメールの操作方法や正しい文章の書き方

3回目 7/ 9

出発直前の最後の集まりとなるため、2週間の生活に向けての目標やルールの再確認、荷物準備を中心に行う。

- 部屋割りと同室のメンバーの発表
- サマースクールの目標と過ごし方のルールの確認
- しおりの確認



● お小遣いの設定とアメリカ通貨の学び



● PCメールの送受信の練習



● 英会話レッスン（ホテルのチェックインやバラエティでのあいさつ）

2回目 6/18

1回目の顔合わせに出席できていないメンバーも集まり、今回のメンバーが全員そろってのプレスクールとなる。そのため、1回目の内容の復習も行う。



● フライトスケジュールの確認



- 行きたい場所や取り組んでみたいことの要望
- プログラムで行く場所の調べ学習
- パッキングリストの作成



● 共同生活におけるルールの作成（プログラム中や同室者に求めること）

● 英会話（ハワイでの一般的な挨拶）

1回目 5/28

この日がメンバー同士はもちろん、Y M C Aとバラエティ指導者が同席しての初めての顔合わせの場となる。



● 自己紹介（日本語と英語）



● サマースクールに参加する動機の発表（日本語と英語）



● 英会話レッスン（入国審査で使用する英語）

アイスブレイク

S S Tの前にアイスブレイキングとして体を動かすワークを取り入れる



英会話・SST

S S Tは午後のアクティビティによって学ぶ内容と活動グループを設定。英会話レッスンはその日の活動にちなんだ内容を学び、その場でロールプレイも実施する



ホテルロビー集合

起床時間は集合時間に間に合うように各部屋で考えて時間設定する

クッキング

昼食と夕食は基本的にメンバーによる自炊とし、担当制やボランティアを募るなど、その日によって取り組み方を変え、自主性を促す



フリータイム

夜のフリータイムを活用して日用品の買出しや部屋ごとにランドリーをする

夕食 夕食片付け

夕食はホテルに持ち帰り、指導者の部屋に集まり全員で食べ、後片付けも行う





カハラモールでランチシェア

ねらい： 資源の活用 協調性 会話
状況理解 行動や感情の調整



レストランで英語で書かれたメニューを読みながら予算内で注文する。注文する料理は1人1品ではなく、全員でシェアできる料理とした。グループで会食をする際、メンバーで料理をシェアする時はどのようなことに気をつけるかを事前に学び、実際の店の中で体験した。



ビーチハウスオーバーナイト

ねらい： 計画性 効率性 生活力
状況理解 見通し 英語力



ビーチハウスに1泊2日宿泊し、1日目のディナーをビリーがメンバーに振る舞ってくれたお礼として、メンバーがお楽しみ会を企画して実施した。お楽しみ会で提供するゲームは1グループあたり20分程度とし、全員が楽しめる内容にすること、さらに初めて体験するメンバーにもわかりやすい説明を心がけること、日本語と英語での説明文を準備することをルールとした。



ダイヤモンドヘッドハイキング

ねらい： 行動調整 協調性 客観性
会話 知識 英語力

3つのグループごとに集団行動で頂上を目指す。頂上までに休憩する時は全員の同意を条件とした。観光客が多いため、休憩する場所を考える。課題ワークとして観光客に記念写真を撮ってほしいことを英語でお願いすることや、写真を見た人がダイヤモンドヘッドに登っていることがわかるようなアングルで撮ってもらうことを出題した。



キャンプアードマンでのアクティビティ

ねらい： 判断力 状況理解 行動調整
自己能力の理解 思いやり



ホノルルYMCAキャンプアードマンでは、「ジャイアントスイング：大きなブランコのような仕組みになっており、1本のロープで体を固定されてぶら下がっている人を他のメンバー全員がロープでつり上げ、その人が合図した高さで止める。その人のタイミングでロープから手を離しスイングを楽しむ」「アルパインタワー：木製の巨大なタワーをボルダリングのような突起物や縄梯子に手や足をひっかけよじ登っていく。頂上まで着いたら、安全ロープ（ハーネス）に身を委ね、下ろしてもらう。」を体験した。その中で自分が置かれている現状の理解や自分の能力の把握、適切な助けや他者の見本を見て学んだ。また他のメンバーが頑張っている姿に、無関心ではなく、応援することや応援されて嬉しかったことなど共感性を培った。

SSTのねらい

代表的な
プログラムと



マカプウ・ライトニング・ハイキング

ねらい： 計画性 協調性 行動や感情の調整
交渉や譲歩 自己能力の理解

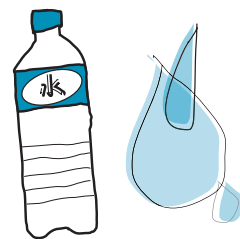


ダイヤモンドヘッドハイキングと同様のグループ構成で、集団行動しながらゴールを目指す。給水についてはハイキングする前にスーパーでグループ全員が消費する量の水を自分たちのお金で購入。そして費用はグループの代表が立て替えた後、割り勘をする。ハイキング中、水を飲みたい場合はグループ全員の承諾を得た後、各自が持っているコップに注いでから飲むことをルールとした。



水をシェアするって？

マカプウ・ライトニング・ハイキングにて



前日夜

グループメンバーに課題の発表をする。内容は「グループで水を買う」。大きいサイズの水を購入、買う量はグループで決め、支払いは個人負担、詳細は明日に伝えることになるが、不安の高いA君はすぐに解散できずに、その場に残る。

「(ハワイの)消費税がわからないから大変。(レジまでに割り勘する発想)各自が買えば楽なのに、水を持つ人は払わないのいい／(割り勘して)コインがたくさんになるのは不便」と不安を吐露する。コインがたくさんになるのは、「1ドル札がたくさんいる」と思っ五ドル札で払うのが習慣になっている／コインは使えないので貯まる

一方、割り勘にしたら払う人にコイン

が集まるので、困ると思う」と言う。指導者から「明日一緒に考えよう。私もコインがよくわからないから、レジで全てのコインを出すと、レジの人が必要な分だけとってくれるので増えないよ」と話す。20分ほど話したが、最後まで消費税に不安に持っていて、レジ後での割り勘は明日の学びでもあるのであえて言わなかったのだが、言った方が眠れただろうかこちらも考えることは多い。子どもたちを見ていて「なんとかなる」と思えるようになれたらいいのだが。一方「なんとかなる」と思いつきの子どももいて、それはそれで本人も困ることになることが多く中庸があればと思う。

当日早朝スタッフミーティング

「ハイキングのための飲み水をグループで買う」のねらいと何故これをするのかを指導者間で再度確認する。安全が最優先であり、水を飲むのを我慢することや熱中症、メンバーの過度の我慢を見逃さない。また水を飲む量はフェアじゃなくてもいいということや水分補給は個人差があるということも必要に応じてアナウンスする。震災時なども想像して避難所で水をシェアすることや、限られた物資の中で人と協力していくこと、弱い人、小さい人を大切にするということもつなげたいと確認する。

また通常、割り勘をする体験がほとんどないメンバーが、お金を出しあうこともSSTとなる。今回はどのように水を買うのいいかを考えさせる。条件として、一人ずつ買うことはしない。1人1個のコップを渡し、それで水を飲む。水の費用は自己負担になるので、どのようにお金を出すか、割り切れないときどうするか。A君のように不安の高いメンバーへのフォローも確認した。このような細かなところまで共通理解を持つことで、指導者が対

等には他の指導者の意図を汲み取ったア・ウンの動きを適切に行うことがおおいにできた。

SSTレッスン

プリントは加藤が前日夜にメンバーのスキルにあわせて作成する。グループもメンバーの状況によって構成を考慮する。プリントは選択肢があるが、それ以外の意見も受け入れる。選択肢が何もないよりヒントがある方がイメージしやすいためである。中には冗談もいれてメンバーが取り組みやすいようにする。(今回は「ペットボトルを転がしながら運ぶ」という選択肢)。

プリントはまず一人で考え、設問ごとに挙手、その後グループで意見を決めさせる。すでに関係性ができているので、違う意見でも何でも思ったことが自由に言える明るい雰囲気であった。

プリントを通して

・購入する水は①なるべく少なめにしてお金を節約する(2人) ②少し多めにし、費用はあまり考えない(7人) ③万が一を考え、かなり多めで、費用

は考えない(不安の高いA君のみ挙手) ここで「先生の分を生徒に払わずなんてありえない」という意見も1人出たが、協議の末、全グループ②となった。・水を飲む場合①毎回同じ量を頻度多く飲む(4人) ②飲む量を気にせず、飲みたいだけ飲む(1人) ③飲む量も回数もなるべく節約しながら飲む(5人)。グループでは①は2つ③は1つとなった。「I love 水道水だから、(水は)無くなってもいい」と明るく話すメンバーもいた。

・途中で喉が渴いたら①先のことを考え、予定したとこまで我慢すべき(0人) ②希望に応じて、いつでもどこでもどれだけでも飲むべき(4人) ③グループ内で話し合い、我慢するか、飲むかを決める(5人) 1人挙手せず。全グループ③を選ぶ。

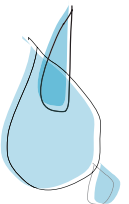
・水の管理は勝手に飲むかもしれないので、信頼できる人のリュックに入れる(3人) ②グループのメンバーが交代で持つ(7人) ③持つのは大変だからペットボトルを転がして歩く(0人) (転がすのは) 通行人のじゃまになる「危ない。びんなら割れるかもしれない」

「びん、買うの？」とメンバーは真面目に議論。グループでは②になったが、今までの嫌な経験から、「信頼できない人がいる」という思いがあるメンバーがいる事実も明白になる。

「このワークはどのような学びをみんなに与えているでしょうか？」には、水を飲む量や買う量の計画性／ものを分ける時どうしたらいいか／意見をすりあわせる方法／グループ内の意見の相違に対する対応／割り勘の仕方／みんなで分け合うのはめんどろ、という正直な意見も。このように何をねらいで学んでいるかもメンバーに意識づけを行う。時には何故このグループになったかも考えさせる。はじめは、同性だから／中学生だから／年齢が近いから等属性で判断していたメンバーも、日の経過とともに、計画性がない／決められない／柔軟性がない等、自己・他己理解が進む。

「これらをする上で一番大切なことは何ですか？ 英単語2つで書きましよう。」には、チームプレイ／グッドヘル





ス／チームワーク／セーフティファースト（A君）という豊かな発想がでて関心する。

最後に、割り勘の仕方、レジの払い方、割り切れない時は細かく最後まで割らずに10円単位にする（1円単位までださない）、多く払う人は自分から言う「お前、払えや」とは言わない」等、レクチャーを行う。

いよいよ実践 ハイキングを通して

ビリーグループは4人であったが、各自の水消費を計算しており、購入する水は一番少なかった。省エネタイプで、「すぐに帰ってくるだろう」と見立てをたてぎりぎりの量にしていた。こ

てたよ」と伝えると納得したようだった。友達力は大きい。このグループは前に行ったダイヤモンドヘッドで1人が自分の都合で行動してしまうことがあったので、指導者としてはうまくメンバー間でやりとりしてほしいと願っていた。最初に水をシェアしたことから楽しく歩け、良い景観スポットでは全員が今までないくらい開放的なポーズと笑顔の写真が撮れた。帽子を忘れたメンバーにジュリーから「帽子がないと歩かせられない」「私のを貸してあげます」と言うとおばさんの帽子は借りたくない」という返事。そのやりとりを見ていた1人が彼の頭にタオルをかぶせるという温かい出来事にほっこり。その子も嫌がらず素直にタオルを巻いて歩く。ジュリーは「ダイヤモンドヘッドは大変だったけど、みんな団結するんですね」とわかりやすく褒める。小さい500mLは結局安心用として飲まずにいがけたが、グループワークがうまくいきはじめたのをグループ皆が感じ始め、指導者とメンバー、メンバー同士のグループダイナミクスが大きく動いた一日であった。



のように計算ができ、見通しがもてる賢さがあるが、真面目過ぎて柔軟さに欠けるところもある。水を飲むときもうまく分配できていたので、ビリーが「あつー」とわざとこぼしたり、「暑くてかわいそう」と言つて、道の草に水をやりたりした。（ビリーのユーモアは日本人にない突き抜けた発想・言動で、これによりプログラムの幅はおおいに広がった）それを見てメンバーの一人が声にはださないが、表情・態度がだんだんすねてくるのが一目でわかった。

頂上でも一人外れて海を見たりしていた。メンバーが「どうしたん？」と聞いても「別に」との反応。加藤が「ビリーに仕掛けられたんちがうの？」と尋ねても「別に」と答えるので「顔にでてるよ。コントロールできる？」とフォローする。

加藤グループは心配症で1,78Lを3本購入し、1人1本持ち、ことあるごとに休憩をした。無邪気な性格のメンバーがいて、「あ、こんなある」と道中の発見やしりとりをしたりするなど全員が水に注意がいかなかった（忘

れていた）。見通しがたなかった弱さもあり、水はかなり余ったが、結果的に一番ハイキングを楽しんだ。

ジュリーグループは水購入時、どれくらい買つていいかわからなかった。「ペットボトルにこれ位飲むかな」「いつも飲む水筒の大きさでどんなん?」「どれくらい飲む?」と聞きながら悩んで買ったのが、1,78Lを2本、A君が不安さから500mLを追加で購入し、割り勘時は「あとで足したから多めに払うわ」と言った。その軽いボトルをもったのは違うメンバーであったが。

ジュリーは意図的に「水1日1Lは飲む方だからよろしく」と購入時に注文をつけていた。最初の休憩時に軽いボトルを持っていたメンバーが「誰のボトルから飲む?」「先輩の重いから飲んだらどうですか?」というと残りの2人が「その言葉はジュリー先生が喜ぶわ」と言つてしっかり指導者の思いが伝わっていたことが感じられた。「何故先生の分もあるの?」と不満そうなメンバーに他の子が「先生もいると言っ



サマースクールを通じて

ビリー

ほんの2週間のプログラムでのメンバーの成長ぶりや変化には、驚かされました。子どもたちにとって、新しい観点から世界を見るといった体験は、めったにできない挑戦でした。このプログラムを終える頃には、達成感と一生の思い出を手に入れることができる信じていた通りになりました。

頼れる親がないため、メンバーは自分のスキルに頼って生活をしなければなりません。もちろん指導者のサポートはありますが、この実生活体験では教科書や授業からでは得られない重要な経験ができます。ほとんどのメンバーにとって、この自分で学校に行く支度をし、食事を作り、洗濯をするといった時間の管理を親の助けなしにする初体験となりました。

SSTでは、様々な可能な対策法を話し合った後に、社会的な状況下で実践します。外国で新しいことに挑戦することは、チームで協力しあうことの必要性がより強調されました。

プログラム中、英語を勉強するのは、

メンバーにとって苦にならないようにした。メンバーはアメリカのカルチャーにどっぷり浸かり、英語を話す人たちに囲まれていたため、教室内だけでなく、毎日の生活の中で英語を学ぶことができました。

このプログラムで私が一番好きなのは、私の愛するハワイをメンバーと共有できることです。私は、海や自然には治癒力があると信じています。自然は、チャレンジであると同時に報酬（ご褒美）も与えてくれます。ジャングルの中で川を渡ったり、熱帯魚とシュノーケルをしたり、クレイターをハイキングしたりといった体験は、日本の日常ではできないことです。生徒たちを自然の中に連れて行って、彼らがはしゃぐ姿を見ることが私にとって何よりの喜びでした。

メンバーが一生の思い出と生涯の友を得るだけでなく、この経験は私の人生も豊かにしてくれました。思いやりと友情は、文化や国の違いを超えます。

(Billy Dougherty)

ビリー、加藤、ジュリーの
テイストがMIX
されて深まるSST
これがチームアプローチ!!

味

fishing, hunting... 自然大好き

Billy

私たちの
もう一つの
顔

yoga, language... 多趣味

Julie

camp, ski... スポーツ万能

Kato

テイスト

TA-SST

加藤

ビリー

ジュリー

ジュリー

ていると色々な問題が起きました。しかしすべてが貴重な経験となり、参加している子どもたちの学びにもなっていました。指導者が与える学びだけでなく、子ども同士でも学び合える環境、まさに人が人に影響を与える濃厚な2週間だったと言えます。

私自身もこのプログラムはビリーやジュリーとチームを組み、対等な立場で指導ができ、それぞれの良さを直に感じ、学びを得る貴重な機会でした。誰かと何かを成し遂げる楽しさや喜びを子どもたち以上に味わうことができ、そのような機会を与えて下さったことに心から感謝しています。

(加藤 義弘)

大人が作り出す空気を敏感に感じ取る子どもたちにとって、私自身、指導者の仲の良さはプログラムを成功に導くための鍵を握るということ、これまでのYMCAでの宿泊行事、国際プログラムを通して経験し学んできました。

今回のハワイサマースクールでは、自然を愛し無邪気でいつも周りにパワーを与えてくれるビリー、冷静で効率性や質を優先した考え方ができ不可能なことはこの世にないと思わせてくれる加藤、専門性を持つ2人の指導者をつなげるパイプ役に私自身がなり、私が惚れこんだこの2人の人柄を、ハワイという場所で子どもたちにも感じ

とってほしいと思いました。実際のサマースクールの中で子どもたちは、持ち合わせていない能力は補い対等に話し合う私たち指導者の姿を見て、困った時は助け合いお互いのスキルを尊重しながら数々の課題を乗り越えているように感じました。また、ハワイで2週間という長い時間を共同生活する中で数々の困難がありました。小さな小さなことにも一緒に喜び達成感と自己肯定感を高めてくれるビリーと、彼らがこれから置かれる環境で通用するためのアプローチをする加藤の両面からの指導により、仲間を思いやり尊重し合いながら行動できるようになったと思います。そしてサマースクールが終わった後もなおメンバー全員がつながり連絡を取り合っていることを聞き、指導者として大変誇らしくうれしく思います。

私自身がビリーと加藤によって自身を高められたように、メンバーそれぞれもこのサマースクールで出会った仲間、そしてこれからの良き人との出会いの中で社会性を育みたくさん学べることを祈っています。

(裏 丁度・ジュリー)

両親へ

中学校の時の数ヶ月を超えるくらい成長しました。(略) 最後にはリーダーシップを取れるようになりました。ほんとに楽しかったです。

先生に関してはかなりよかった。先生も友達もみんな大好きになったよ。今まで気づかなかった自分のことにも気づかされた。

普段邪見に扱ってしまうことは申し訳なく思っています。僕は昨年よりできることが多くなったことを実感しています。ここで身につけたことを家族や学校そして将来のために生かしたいと思っています。

昨年は強制的に行かされたけど今年は自分で決めてきました。いつも新しい世界を提供してくれるのはなぜですか。私がいつかそれに気づくまで進み続けたいと思いました。

他の人の面倒を見ることや苦手なことにチャレンジすることができるようになりました。



保護者感想



最近団体行動は不満を持った態度や表情なのに、今回はどれも楽しそうに輝いていて色々あったとしても本当に楽しかったんだと思いました。いろいろな課題が改めて浮き彫りになり、気持ちのコントロールなどが難しいですが、ハワイという環境は大きいと感じています。

お友達が周りに集まってすごく楽しそうで、今までにないほど生き生きしていて嬉しくなった。

荷物の片付けがうまくできず電話をしてきましたが、いつもなら「片付け方を教えて欲しい」というところ「ヒントを出してほしい」と言ったところが印象に残った。

変化があったこと、自らスケジュール管理・持ち物準備等親の声かけ前にできている。やりたいことよりやるべきことを先にしようと意識している。時間と全体を見て自らの行動を考えようとしている。楽しいことを終了する際、気持ちの切り替えが上手にできるようになって驚いた。

本人も家族も気づかずに過ごしているところに視点とアドバイスをいただき感謝しています。

写真嫌いなはずが、笑顔がたくさん見られて驚きました。

気が進まないこともやらないといけない、できないと思っていることも頑張ればできることを少しわかったようです。

集団の力ってほんとにすごいなと実感しました。友達とこんなに仲良くなってビックリしました。生活を共にすることで信頼関係や仲間意識がしっかり芽生えた。学校ではこんな関係性を結べる仲間が全くいないので、何故なんだろう。心を許せたり、わかりあえる仲間に出会うことが本当にすごい。一人で主体的に動こうとしていることも。

素晴らしいサマースクールでした！



サマースクールの準備に向けて大阪YMCAのスタッフと直接連絡を取り合う中で、文化やビジネス習慣の違いにはさまれ、戸惑うこともありましたが、お互いに「生徒たちにとって一番必要なことをする」という姿勢が常にあったため、YMCAのスタッフとは、「今何をするのがベストか」で、コミュニケーションをとることができました。2回目のプログラムでは、このチームワークがさらに強まり、よりパワフルな効果が発揮されたと思います。スタッフ、ア・ウンの呼吸でそれぞれ

けていますし、今後も継続されていくことでしょう。聖書には、神様のなさることに無駄はなく、必要はすべて満たされるとあります。タイミングといい、キャストイングといい、必要が見事に満たされたこのプロジェクトは、神様のご計画としか言いようがありません。このプロジェクトは神様の祝福をたくさん受け、ますます素晴らしいものになり、より多くの生徒たちの励みになると信じています。

(Rika Smith)

「お給料はそんなに払えないけど、バラエティスクールでジャパンプログラムを始めることになっている。最適な人材に来てほしいと祈っていたところ、神様に『りか』と示されたのだけれど、興味はある？」という、同じ教会の姉妹からのメッセージにより、私はバラエティスクールに導かれました。

の役割を果たしているのを見るのは、とても清々しいものでした。やはりこれも、「生徒たちにとって一番必要なことをする」姿勢の賜物だと思います。この「生徒たちにとって一番必要なことをする」という姿勢を関係者は、サマースクール準備中、また最中、そしてその後もブレることなく、2回目のサマースクールを終えた今でも持ち続

出発前に設定した目標の振り返り（社会性・生活面）



メモが取れました	わからないときにはメモを取る
他の人と比べたらできないところもあるけど、自分にしてはまあまあできたのではと思っています	名前で人を呼ぶ
誰かが喋っている時は手を下げるようになった	周りの状況を見て発言する
(A君) 助言等は聞き入れて実行できたと思うが、話し合いの時意見を押し通してしまうことがあったように思える (B君) 皆の話を聞いて行動をした	相手の意見を受け入れる
いつもの自分とは違うほどにうまくできた	物忘れをしないために整理をしっかりする
目標を思い返すことで気持ちのコントロールができました	朗らかに過ごす
新しい友達や先生としっかり会話できた	人とのかかわりを増やす



学校法人 大阪YMCA

〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6 ハワイサマースクール事務局
2018年1月 発行元：大阪YMCA 編者：鍛冶田千文・加藤義弘・裊丁葉 デザイン：裊丁葉